グローバル化する美術館 もあるよ！

―アメリカとフランスの文化戦略―

グローバル化ということばが、新しいものではなくなりつつある現在において、分館の設立という方法によって、国や地域の枠組みを越えようとするミュージアムが登場している。今回の研究会を通して、アメリカとフランスの事例をもとに、ミュージアムのグローバル化とそれをめぐる議論について考察したい。

日時｜2013年3月21日（木）
14:00～16:00

場所｜一橋大学東キャンパス
国際研究館4階大教室

主催｜一橋大学博物館研究会

入場無料・事前登録不要

発表1
神島智美 （一橋大学大学院言語社会研究科・修士課程）
「グッゲンハイム美術館のグローバル化とアイデンティティをめぐる批判的考察」

発表2
小泉順也 （一橋大学大学院言語社会研究科・准教授）
「拡張するミュージアムの行方 ― ルーヴル美術館の展開」

全体討論

（発表の順番や討論の時間は変更することがあります）

連絡先｜小泉順也 m.koizumi@r.hit-u.ac.jp